

令和6年度 江戸川区立松江小学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	「かがやき」 かいっぱい笑顔いっぱい松江の子			目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	・あなたもわたしも大切な一人を目指した学校 ・まなぶ子・つよい子・えがお ・児童にとって必要な教育を目指す教師		
前年度までの本校の現状	成果	○問題解決学習や探究的な学習を基盤にした授業改善 ○体育の授業力向上と児童の体力向上 へ向けた取組の強化			課題	○基礎・基本の定着や更なる学力向上 ○松江スタンダードを基にした指導の徹底		

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」 自己（学校）評価(A～D)		「中間」 学校関係者評価(A～D)		「年度末」 自己（学校）評価（A～D）		「年度末」 学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた 改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	学校の組織的な対応による取組の実施・改善・充実	・校内研究を算数とし、「江戸川区スタンダード」を活用した授業を全員行う。 ・ICTを活用したプログラミング思考を目指した展開を図り、思考力判断力表現力を養う。 ・学力向上委員会で江戸川っ子studyweekの在り方の検討をし、家庭での学習習慣を身に付ける。	・算数におけるCD層を20パーセント削減する。 ・CD層の学習に対する意欲を向上する。 ・江戸川っ子studyweekを児童全員が取り組む。	50%	50%	C	・全国学力学習状況調査では昨年度と平均正答率が変わらず、CD層の削減にはいたらなかった。	C	・先生たちはわかりやすい授業を行っている。学習規律や環境の整備に期待している。	B	・課題を自分で読み取る時間をつくり、見通しをたてられる授業を行うことで児童の意欲の向上につながれた。	B	・学力向上に関し、家庭の意識の向上が必要である。	・授業の組み立てを校内研究で行い、共有を図る。
	○読書科の更なる充実	・学校図書館の利用を、意図的・計画的に行い、探究的な学習ができるようにする。 ・蔵書管理システムが導入されることから、探究的な学習がしやすい環境を整える。	毎週の利用予定を作成し、全学年が定期的に利用できるようにしていく。 探究的な学習を全学年、学期に2回行う。	50%	80%	B	・学校図書館を利用して探究的な学習を行い、自分の課題を解決するためにまとめられている学年が複数あった。 ・10月からの蔵書管理システムを生かし、全学年が取り組めるようにする。	C	・読書習慣が身につけている児童は4割を下回った。朝読書や読書指導を徹底することにより、読書習慣を身に付ける必要がある。	B	・探究学習の手立てとして本を活用した。まとめたものを児童同士で共有し、学びを深めることができた。	C	・本に親しむことよりもタブレットを活用する児童の姿が見られる。また、近くの松江図書館の利用をすすめてもよいのではないだろうか。	・ICTの活用について年度当初に研修を行い、効果的に活用する。 ・家庭学習の意義や方法を保護会等で説明し、家庭でも持続できるようにする。

体力の向上	・運動意欲の向上や健康の推進に向けた取組の実施・改善・充実	体力低下に歯止めを掛けられるように、休み時間の外遊びを充実させるとともに、日常的に運動に取り組めるように運動遊びを計画的に実施する。 「江戸川っ子なわとびチャレンジウイーク」を通して縄跳びに親しむ。また、マラソン、生活リズム向上週間、オリパラ掲示板の充実を図る。	体力調査において江戸川区の平均値を上回る。運動遊び年間35回、体力向上に向けた取組年間3回の実施を目指す。 マラソン・なわとび年間各4週間実施して体力向上を図る。	70%	70%	B	・運動遊び、「江戸川っ子なわとびチャレンジウイーク」について計画的に行っている。引き続き、充実した内容となるよう改善を図る。	B	・「なわとびアタック」や「大谷選手のグローブを使おう」といった取組から運動する楽しさを味わえている。	B	・定期的に運動に親しめる取組を行ったことで、体を動かす楽しさを味わえることができた。	B	・投力が低いとある。地域で行われている行事を活用し、連携して技能向上を図る環境を増やせるとよい。	・次年度も引き続き運藤に親しめる取組を行い、体力向上を図る。
				70%	70%	B	・「生活リズム向上週間」を行い、家庭への啓発に努めた。睡眠や朝食に関する課題について改善を図る。オリパラについては給食等を通して、国際理解について学ぶことができた。	B	・ほとんどの児童が規則正しい生活をしている。引き続き、規則正しく一日を元気に過ごせるよう指導してほしい。	B	・「健康いきいき貯金」や睡眠健診等を通して家庭でも健康に関する啓発を行うことができた。	B	・フッ化物に対して誤解があるようである。正しい知識をもとにフッ化物洗口や歯磨きを行う必要がある。	・今後も家庭と連携して課題を改善していく。
共生社会の実現に向けた教育の推進	共生社会の実現に向けた教育の推進	・適宜、校内委員会を設置し、情報共有を図る。また、ユニバーサルデザインを取り入れ、教室環境を整える。 ・エンカレッジルームの活用表を作成し、計画的な活用を目指すとともに、特別支援コーディネーターのリーダーシップで効果的に活用する。 ・特別支援コーディネーターや研究副主任を中心に副籍交流や交流及び共同学習の充実を図る。	・年1回、教員がわかば学級で1日研修を行い、配慮の必要な児童への対応の仕方を学ぶ。 ・エンカレッジルームを活用し、配慮の必要な児童の安心できる居場所を確保する。 ・年に1度、副籍交流や交流及び共同学習を行う。	70%	70%	B	・週に1回、配慮の必要な児童に関して情報共有を行い、さらに、全体を通して対応策等も含めた話し合いを行った。 ・わかば学級に1日研修に入る、全教員が配慮の必要な児童への対応の仕方を学ぶことができた。 ・教室に入ることが難しい児童がエンカレッジルームを活用することで、学校に來たり、教室には入れたりできる時間が多くなった。 ・複籍交流に関しては特別支援コーディネーターを中心に月に一学年だより等を通じて情報交換を行っている。	B	・低学年から習熟度別授業を行うなど、自分のペースに合った学習ができることで安心した居場所を設けた。また、複数の教員が関わることで児童理解を深められた。	B	/・週に1回、情報共有を行い、児童の様子を把握できた。 ・わかば学級への研修や校内研究を通して、授業の在り方や環境を整えることができた。 ・エンカレッジルームがよい相談場所となっており、居場所を確保することができた。必要に応じてICTを使い、対話を行うことができた。 ・複籍交流に関しては特別支援コーディネーターを中心に情報交換を行った。	B	・児童の把握を引き続き行ってほしい。 ・わかば学級の作品などを見るととても素晴らしかった。ぜひ通常学級でも行ってほしい。 ・居場所の確保は今後とも続けてほしい。	・今年度の様子をまとめ、次年度へ引継ぎを行う。 ・ユニバーサルデザインの観点を決め、全員が同じ視点で学べるようにする。 ・エンカレッジルームの活用は引き続き行い、担当を決め、児童に寄り添える形をさらにつくる。 ・今後も複籍交流を行う。
				75%	75%	B		B	・エンカレッジルームの活用がよく、そのため安心して登校できている。	B				

不登校・いじめ対応の充実	子どもたちの健全育成	・全学年、アンケート 全員面接を実施する。 ・登校に不安のある児童を関係諸機関に全員つなげる。 ・必要に応じてケース会議を設ける。	・担任やSCによるアンケート、面接を7月に児童100パーセント行う。 ・いじめ防止対策委員会を年3回行う。 ・毎週金曜日に全職員での共有を図る。	80%	100%	B	・5年のSCによる全員面接を行った。2学期は6年生も行う予定である。 - アンケートについては全学年に行った。 ・登校に不安のある子はSCやSSWにつなげることができた、 ・情報共有においては計画的に行い、記録してある、	B	・SCによる面接を6年全員に行った。 アンケートを行い、早期解決につなげた。 ・SCやsswについての認知が広がり、利用する人が増えている。 ・情報交換の記録は引き続き行っている。	B	・SCと全員面接をすることで相談しやすい環境を整えた。 ・アンケートをとることで相談をしてもよいことを伝えることができた。 ・情報交換は複数の目で見えるために大きく役立てることができた。	B	・不登校の児童がいることが気になる。学校と繋がれる体制を整えてほしい。	・児童も保護者も相談しようとする姿勢が見られるようになった。 ・SSWの活用が難しい。お願いしても保護者の許可が必要であったり、教育研究所でのケース会議の結果を待たなければならなかったり、タイムラグがある。 ・アンケート結果を受けていじめ防止対策委員会での活用もできた。 ・情報交換の必要性を教職員が感じられるようになり、報告をするようになった。
学校（園）の地域社会に開かれた実現	教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施・改善	・家庭、地域にHP、学校だより等を活用して、教育活動を発信する。 ・学校公開の周知、徹底を行い、教育活動を伝える機会とする。	・HPは各学年週に1回。学校だよりは月に1回、家庭や地域に向けて発信する。 ・年3回学校公開を行い、全家庭の参観を目指す。	90%	90%	B	・教育活動の発信のため、HPの更新は随時行っている。	B	・HPがよく更新されており、わかりやすく教育活動を伝えることができた。	B	・HPの更新を随時行い、教育活動の発信を行えた。 ・学校公開ではほぼ全家庭が参観した。児童の学校での様子から学校に対する理解を深めることができた。	A	・HPや学校公開で児童の様子がわかるのがよい。	・HP等を通して引き続き教育活動の発信を行う。 ・次年度も保護者が参観しやすくまた、興味のもてる学校公開を行う。
教育の特色ある展開	防災教育の推進	・東日本大震災について語り継ぐとともに、犠牲になられた方への哀悼の意を表する機会を設定する。	・東日本大震災発災日である3月11日には「3.11集会」を実施する。	70%	90%	B	・6年の総合的な学習の時間において防災に関する学習を行えるよう準備を進めている。 ・地域とともに防災訓練を行えるよう計画を立てている。	B	・地域とともに防災訓練を行うことができ、地域といっても安心である。	B	・地域とともに防災運動を行うことができ、6年生がまとめた「防災プロジェクト」についても見ていただくことができた。	B	・旗振り活動など子供たちの安全を見守りたいと考える。 ・子供たちと地域の人が挨拶できる関係になれると良い。	・今年度の反省を踏まえ、次年度に生かしていく。